三条北ロータリークラブ週報

例会日　2011. 7. 12　累計　No.1182　当年　No.2

例会日：火曜日　12:30　～　13:30
例会場：三条ロイヤルホテル　TEL 34-8111 FAX 34-8114
事務局：三条市本町 3-5-25　三条ロイヤルホテル内
TEL　0256-35-7160　FAX　0256-35-7488
HP：http://www.sanjo-nrc.org　AD：north@sanjo-nrc.org
発行：三条北ロータリークラブ　会報委員会

国際ロータリー会長：カルヤン・バネルジー
（インド・グジャラート）
地区ガバナー：石本隆太郎（新潟RC）

三条北RC会長：星野　義男
三条北RC幹事：石川　一昭
三条北RCSAA：丸山　勝

■出席状況
・本日の出席：67名中35名
・先々週の出席率：68名中57名
83. 82%（前年同期77. 46%）
・6月の出席状況：会員数　68名
例回数　4回
平均出席率86. 76%
前年同月77. 46%

■本日の行事：卓話
「逆境を乗り越え　幸福をつかも」

■本日のビジター：
三条南RCより　鈴木圀彦さん

■先週のメークアップ：（敬称略）
７月１２日三条クリーン協議会
構成団体会議　早川瀧雄
１２日市内４ＲＣ会長幹事
社会奉仕委員長会議
星野義男、石川一昭

「ロータリーの友７月号」紹介
５６頁
「同論異論（仮題）原稿大募集！」
是非、投稿してください。
テーマ
①大震災に対して、自粛はすべきか?
②会員増強は必要か？否か？

会長挨拶：星野義男会長

こんにちは、２回目の会長挨拶です。
まだまだほんとに緊張が解けません。ストレスも溜まるばっかりですけれども、がんばっていきたいと思います。
私は、７日から１０日までの４日間、石川幹事と韓国・中国へ行ってきました。帰国すると日本は梅雨明けをしており、早い時期からの猛暑に加え節電による酷暑の中を皆さん大変だっただろうな思いました。これからも暑さは増すばかりではありますが、皆さんには日頃以上に健康にお気遣いいただき、例年以上の暑さをのりきって頂きたいと思います。
ところで、向こうでも湿度が８０%位と高く過ごし辛い環境の中、展示会場や印刷会場等を見学してきました。商売に役立つかどうかは疑問ではありますが、照明の展示会もありました。中国は早くもＬＥＤが主流でありまして、ＬＥＤの通常の電球・蛍光灯からお店のディスプレイ用の特殊な電球と多種多様な取り揃えをされており、１００を裕に超えるブースがありました。いかに注目を集めている産業であるかということと合わせ、日本の緊迫した問題となっている節電という点では興味深い所でございます。
話は変わりますが、本日歴代会長の卓話ということで、初代会長の中條耕二さんからトップバッターとしてお話をいただきます。中條さんを始め歴代会長の皆さまには、大変ありがたく、また楽しみにしております。宜しくお願い致します。
次に、お願いでございます。来週の例会でのＡＧ事前訪問に始まり、翌週にはガバナー公式訪問がございます。是非とも大勢の方からの出席をお願い致します。以上です。
ありがとうございました。

幹事報告：石川一昭幹事

・石本ガバナー、新世代奉仕委員長より
ライラ研修開催について
期日２０１１年１０月１日・２日　１泊２日
会場　ニュー・グリーンピア津南
・鈴木ガバナーエレクトより
事務所開設のお知らせ（７／３～）
長岡グランドホテル５Ｆ
・三条南ＲＣより　市内会長幹事社会奉仕委員長会議のご案内
７月１２日（火）１３：３０～
三条ロイヤルホテル
・石本ガバナー公式訪問　７月２６日（火）　点鐘１２：３０
会場：三条ロイヤルホテル

委員会報告

会報委員会：「ロータリーの友」７月号紹介（１頁に記載）

■ロータリー財団ＢＯＸ：１２日現在累計４２，０００円

■米山奨学ＢＯＸ：１２日現在累計２３，０００円

渋谷　義徳君　少額ですが気持ちだけです。
斎藤　　正君　青木さんの一言に誘われて
大野　新吉君　青木委員に依頼されました。この調子で是非是非、星野会長念願の地区№１になる様に協力しましょう。
岡田　大介君　青木さんにキョーハクされて！
石川　勝行君　青木さんに頼まれました。
青柳　康博君　ボックスに協力します。
石川　一昭君　ＢＯＸに協力
山崎　　勲君　ノーコメント
浅間　一洋君　　〃
丸山　達夫君　　〃
青木　省一君　　〃
山本　　賢君　米山奨学委員会、米山、青木、山本です。１年、宜しくお願いします。

■ニコニコＢＯＸ：１２日現在累計３６，０００円

鈴木圀彦君（三条南ＲＣ）新年度が始まりました。星野会長様はじめ三役の皆様ご苦労様です。お互いに頑張りましょう。
樋口　金占君・馬場直次郎君　この暑さあと２ヶ月余りも続くかと思うと「ウンザリ」です。早く秋がこないかなあ・・・。
阿部　勝子君　中條さん卓話ゆっくり聞かせて戴きます。よろしくお願い致します。
岡田　大介君　そうニコニコもしていられませんが・・・協力！
星野　義男君　歴代会長卓話、トップで中條耕二パスト会長に感謝して!!
石川　一昭君　ＢＯＸに協力

本日の行事：卓話「逆境を乗り越え　幸福をつかもう」

初代会長　中條耕二パスト会長

星野会長年度、いよいよ７月に入り、奉仕活動を開始された事に敬意と感謝を申しあげます。

渋谷義徳プログラム委員長より、星野会長の方針で「歴代会長から卓話をして頂く」とのご指名の企画と伺い、ロータリーはノーはない。ご命令に従い、当北クラブの伝統を守る意味から、引き受けさせて頂きました。テーマについては特に指定しないとのこと、気軽に述べてみたいと思います。

ロータリークラブに２８歳で入会、席を置かせていただいて早いもので４７年が過ぎ、正に光陰矢の如しであります。

お陰様で健康で満７５歳を過ぎ、ロータリーライフの例会　地区のロータリーの行事の色々、ロータリーの本部があるアメリカ、シカゴのエバンストンを訪問させていただいて、規定審議会の日本代表の一人として国際協議会に参加させていただいた事等。数多いメークアップと共に忘れること事の出来ない思い出となりました。

これもひとえにロータリーの精神の奉仕と友情の賜物と会員諸兄に対して心から感謝いたしております。

ひと言で言えば、ロータリーに入って多くの出会いがあり、友情が生まれました。

私にとって、ロータリーは切っても切れない生活の一部であり、今は楽しいロータリーライフとなり、ロータリーはオアシスであり、例会等、友情を更に深く、絆を強く感じております。最

近は公職から退き、肩書きのない普通の生活。緊張から解放され空白の手帳を眺め、嬉しく青春が戻ってきたように思っております。
　私が日頃から尊敬申しあげている、京都大学元総長、味方村出身の平澤　興先生（RI 第 2650 地区パストガバナー）のお言葉を借りればロータリーの奉仕とは。
　百慈を施したるは、全て忘れよ。　　一恩は終生忘るべからず
と述べておられます。ロータリーの真髄をついた名言ではないでしょうか。
仲々、凡人の私には実行できない言葉と思っております。
　白根にある平澤先生の記念館に足を運ぶ度に、日々、努力、努力と平澤先生の生きる心構えを学んでおります。
　パストガバナーの佐野　孝先生は平澤先生を恩師と仰ぐ人と聞いております。
　ちなみに平澤先生のガバナー時代はすべての会議は無欠席であったそうです。
　新潟県の偉人として、そしてロータリーの大先達でした。

ロータリアンのキーワードとして、私はいつも心に留めております。
一つは出席すること。二つはロータリーを好きになること。三つは地元を愛し自分のクラブを愛すること。四つ目は夢をもつこと。五つ目はロータリーを楽しむこと。これはロータリーの奉仕を通じて、親睦と友情が生まれ更にロータリーが楽しくなる。
　この五つを大切にロータリーライフを送ってきました。
　特に二つめのロータリーを好きになる。この事はロータリーの歴史や組織を深く理解し、106 年経過し、発展し続けたことを知り、更に世界の平和を求めていることを。過去にアメリカ、イギリス等を相手にして戦争した日本人のひとりとして、ロータリーの大きな目標の平和を大切にロータリー加盟２２０ヶ国の国を愛し、ロータリーを好きになることを大切にしたい。そしてなによりも平和が第一と思っております。
　私自身、ロータリー歴は長いだけで、勉強不足、これからのロータリー変革をみたり、未来の夢計画を見るとき、ロータリーの奉仕の大切さを痛感しております。
　お陰様でロータリーは心のよりどころとして、優しさや、絆、生きる喜びを沢山与えていただいております。
　ロータリアン一人ひとりは職業を異にしますが、同世代を生きる人と人との深いお付き合いこそ、貴い恩人と思っております。
　もしロータリークラブがなかったら私自身の人生は仕事一筋、金儲け中心の生き方となり、ロータリーによる人との交わりの中で人への奉仕、優しさや思い遣り弱い方々への関心、人と人との深い絆を作ることもない、乾いた人生をおくるという孤独な立場、ひとりよがりになったのでは　と想像しております。何と寂しい事でしょう。
　今、私の生きる目標は自分の他にいる自分との闘いであり、自分の心変われば、運命が変わることと、病気との闘いを心の目標とよりどころにしております。
　　心変れば
　心変れば　　行動が変る
　行動が変れば　　習慣が変る
　習慣が変れば　　人格が変る
　人格が変れば　　運命が変る
日々懸命にこのひとことを目指して暮らしております。

　さて話題を変えて、人生を振り返り、私の少年期、青春時代に触れてみたいと思います。
　昭和１７年４月、国民学校に入り、昭和２０年８月１５日、終戦を迎えました。
　小学校となり、当時４年生でした。戦中の４年間は食糧不足、一億一心　勝つまでは欲しがりません　衣類もつぎはぎだらけの服、学童疎開の子ども達、芋が主食、いなご、たにし、どじょう、なんと食べられる物は何でも食べました。しかし当時の写真は　あばら骨がでている子供ばかり、栄養失調状態、歴史上、身長、体重共に最悪な記録が残されているのを見ても悲惨な生活であったようです。Ｂ２９のアメリカの戦闘機が三条の上空を堂々と飛び、長岡市を襲い、多くの死亡者がでて、三条からも赤々と燃えている姿を目の前で見たとき、戦争の恐ろしさを体験しました。絶対戦争はしてはいけないと。
　今から考えると、あの広大な土地と資源を持つアメリカとよく戦争したものと、知らないこと

は恐ろしいこと。日本の無知を嘆いております。原爆の広島と長崎の投下は悲劇そのものでした。
　戦後の日本は、自由となり統制された庶民は解放され、夢と希望のあふれた教育、経済へ大転換されました。新しいことばかりでした。
　昭和２３年に学生改革が行われ、新制中学が生まれ、６・３・３制となり、新制中学一年になりました。当時の三条一中は校舎が無く、三条小学校出身の私達は四日町小学校の校舎にお世話になりました。四日町まで１年間通うことになりました。
　中学二年生から島田のグランドの一角に高田の旧陸軍の兵舎を移転し校舎が建てられました。椅子や机を生徒ひとり一人が木工屋さんから運びました。子供ながら重く、休んでは運ぶという重労働を思い出しております。
　最初は教室だけ完成し、三年生になり体育館兼講堂が完成したように記憶しております。グランドは荒れ放題、生徒全員で畚（もっこ）を担ぎ土を運び、毎日皆でならして、野球場や陸上競技場を手作りしました。
　幸い布のグローブと貴重なボール２個とバット１本しかない野球部に入ることができました。日暮れまで外野のライトを守り、半分は泥の江川に入った球探しに一生懸命、練習に励んだ少年時代を思い出し、懐かしく思っております。
　諸先生より受けた温かい心、優しい心、強く生きる励ましの心、を忘れることはできません。物質的に恵まれない中でも、心の中はいつも夢と希望に満ちていたように思います。
　当時、三条には一中と二中しか中学校はなく、野球ばかりでなくバスケットともに対抗試合は市民の方々の観戦と応援でいつも超満員でした。
　やっとユニフォームが９人分揃い、一中の選手として、二中との対抗試合は心躍る気持ちでいました。戦後解放された野球は三条で復員軍人の血気盛んな人達の発散する絶好のスポーツで、プロ野球も巨人の川上、阪神の藤村に象徴されるように、地方でもスター選手が多勢誕生しました。
　ユニホームも帽子もない一中野球部も大人の応援や諸先生の励ましで立派に試合し当時食べたことのない、カツ丼をご馳走になり、おいしいひとことを忘れる事はなく、懐かしく思い出しております。
　当時、木曜日は電休日、一中のグランドは社会人の方でいっぱいでした。
　土曜日の午後、日曜日は試合、観衆は市民の方々、娯楽の少ない時の市民挙げての展開であったようです。

　やがて中学三年生　７・８０％は義務教育を終わり、職に就き、２・３０％の生徒が新制高校を目指し勉強しました。
　私は父が旧制商工学校卒でしたので、三条実業高校を奨められましたが、兄が三高の三年生、三条高等学校を目指しました。幸、入学を許され昭和２６年４月、三高に入学することが出来、夢と希望に溢れていたようです。
　兄は努力家で将来の夢を託して早稲田大学、政経、難関校を突破し父も母も期待しておりました。
　弟の私、二人兄弟ですので当時家業の鐵屋を誰が継ぐか私も上の大学へ進み出来れば弁護士という難しい職に憧れておりました。兄は「俺はもう三条には戻らない」と私に密かに言って上京しました。
　当時は家督は家の長男が継ぐことは常識でしたが、兄は帰らず東京で一家を興す決意をしておりました。
　おまえも一流の大学へ行くなら一年生から学習していないと仲々競争が激しいぞと言われていました。
　一年生夏休み　父は心筋梗塞か心不全か朝午前８時半頃、出先で亡くなりました。お盆過ぎの８月１９日でした。昭和２６年戦後興廃の最中、中條家の大黒柱を失い心の拠り所をなくして、一家の進むべき道は閉ざされ、母中心、私と二人の家族となってしまいました。
　母ひとりの仕事に頼る事にある日突然になってしまい、１５歳の少年の肩にかかったのです。高校を辞めるか、決断しなければなりませんでした。迷いました。
　当時はひとり鍛冶、主に刃物鍛冶相手の商売でした。百貫目のハカリ一台、荷車一台、自転車一台だけでした。わずか刃物用材料が百貫位の在庫だけでした。金は無く鉄屋の無尽から月１割のお金を借りて頑張りました。

ありがたいことに当時は仲間取引があり、月末勘定でした。毎日刃物鍛冶への現金売りがあり、商品回転も月２・３回転、朝６時には開店し夜は１０時頃までは閉店しませんでした。食事中もお客様優先し、母と私と交替で食事し、配達は私の主な担当でした。鍛冶屋さんは夜なべして晩酌し、金物屋さんに商品、鋏、包刃などを持って現金にして、翌日の鐵の仕入れに来る。主に刃物鍛冶を相手にしながら、３年間三高に通う事になりました。毎日が多忙でした。

一年生の時に入った部活は図書部でしたがすぐ辞めて、身体を鍛えようと柔道部に入部しました。授業を終わり、１時間だけ柔道の稽古をして、一目散に家に帰り、配達があったり、お客様相手の計り売り、鐵の材質を学び普通鋼と特殊鋼とあることを知り、刃物には生地とハガネが必要、門前の小僧となってしまいました。地元の鍛冶屋さんに励まされ勇気づけられ幸にして定時制に行かず三年で卒業となりましたことは良かったと思っております。

三高柔道部は顧問に安室　誠先生がおられ直接六段の先生に習いました。当時の三高は県下で強い名選手が数多くおり、私は身体を鍛えることが目的であり、正選手になり、活躍することは論外でしたが、ある日突然５人の先鋒から大将までのひとりが病を得て欠場となり、二回程、名門三高の正選手としてインターハイ、国体予選と出場しました。当時は体重別はなく、安室先生から引き分けを指示され、私の引き分けで代表戦で勝つという作戦でした。インターハイ、国体とも個人戦で２名の名選手が輩出し、九州熊本で安室先生は監督として出場され、２名とも大活躍しました。私は合宿にも参加できず初段を与えられただけでした。その後、体重別が誕生し活躍する場が出来ましたが、柔道する暇もなく、唯々仕事一筋へと進みました。

兎に角、物のない時代、下駄を履いてそれも高下駄（アシダ）で三年間、新保の三高へ古城町の自宅から通って、前途はかなり苦労が待っていることなど考えない日々でしたが。今となっては母と二人三脚の毎日、振り返って見れば懐かしさで涙が出てきます。

当時最大の問題は大学進学か、鐵の修行に上京するか二者択一でした。

恩師遠藤　実先生、若干２５歳、早稲田大出身の最初の担任でした。自宅まで来られて母とのやりとり、母からどうするか、強く求められ先生の大学の推薦はとうとう断る事になり、１７歳の少年の私は丁稚奉公の道を歩むことになりました。つらい思いで決断したことが甦ります。

母は「可愛い子には旅させろ」自分も大正・昭和と東京で修行した経験があり、しかし勉強もしたかったと述懐したことを思い出しながら､過酷な運命が待ち受けている道を選んだのでした。当時卒業式は３月１日、２日には東三条駅に数人の同級生仲間が送ってくれました。煤煙の立ち上るデッキから送る人が見えなくなるまでハンカチを振ったことが走馬燈のように思い出されます。目には涙がいっぱい出てきたことが記憶に残っております。

これからの人生、不安と希望が入り乱れ、東京へと列車は汽笛が大きくこだましながら進んで行ったのです。

多くの仲間の優しさや励ましの心は今でも忘れる事は出来ません。その後送りに来てくれた親友の多くの子供達から私の会社に入ってもらう等当時は夢にも思わないことでした。

昭和２９年３月上旬、雪解けの寒さの中、いまだ春の待ち遠しい空っ風の吹く肌に刺す東京の風、初めて味わう孤独感、さみしさがこみ上げ、夢と希望をもつ田舎出の一少年の東京の一日が始まりました。前は電車、後は総武線の中にバラック家があり、騒音で眠られない日も続きましたが、馴れてくると子守歌のようになりました。

夢に見るのはふるさと三条の事ばかり、家のこと、家族のこと、布団の襟が濡れた顔に当たり、寂しさに耐えたことが昨日のことのように脳裏に浮かんできます。

ファイバーの小さなトランク一つでの上京、母が手作りで作ってくれた布団を大切に、鐵の道一筋のスタートとなりました。

まず最初の難関は言葉でした。車がズル　車が動くの三条弁、ズルという言葉でみんなに笑われました。１５人位の社長一家の住み込みを足しても少人数でしたが最初の仕事は掃除と御飯焚きでした。女中が福島から来ても厳しくてすぐ辞めてしまう。御飯焚き、番頭以下１０数人の御飯は大釜に炊く。朝５時に起きて薪で焚くのです。私は御飯焚きは家でやっていましたので得意技のひとつでした。女中が来るまでと言うことで毎日御飯焚き、早朝納豆売りをつかまえ、更にシジミ売りもつかまえての朝食づくり、昼食はコロッケ。１０円で三つの小さな食物でした。ソースはサービスで沢山かけてもらいました。

腹が減っては戦ができないとはこのことで毎日、おひつを眺めては足りない御飯。３杯目にはなくなってしまい、早く食べないと無くなると言う事を初めて経験しました。

仕事はスクラップ仕入れから鉄筋丸棒、鉄板中厚板等、鉄鋼全般を経験することになりました。

クレーンは勿論ない時代。柔道で鍛えた私の身体は見事に筋肉質となり、当時十両を退いた人と負けないで重労働に耐え、人並みに働き、7 月には品川の鮫洲という所で三輪車の免許を一回で合格し、みんなが驚いたことを思い出しております。チェンジレバーはローで走りました。手でアクセルをうごかしクラッチとブレーキ、ローからセカンドは入れられません。最後までゆっくりローで走り、縄一本おいてある線でとまり、安全第一で良かったと。実は昨日海に落ちて亡くなった受験者がいたことを知らされ、チェンジレバー、ローからセカンドに入れられない自分には幸いでした。

学科試験は 5 分で出した答案は百点でした。試験官がおどろき、1 時間後の発表は私の名前、フルネームがのり、うれしかったことを思い出しております。この運転免許はやがて四輪免許となり、改正で 2 種免許になり、今も教習所に行かず取得した免許証を大切に運転しております。省線亀戸から品川迄 10 円、バスで 10 円、免許料 300 円計 320 円かかった免許証を大切に感謝しながら、私の飛躍のもととなった小さな宝物となりました。都内を初めて運転した喜びも忘れません。

汗と油の毎日、洗濯は亀の子せっけんに洗濯板、昼間は干し竿が空かず夜専門でした。

唯一の楽しみは 15 円の風呂。美人の若い娘が番頭にいて、最後 12 時頃に行くと洗濯を許してくれました。気立ての良い子でした。

当時、社長は 45･6 才。旦那と呼んでおりました。私の風呂へ行くのをみると。親父こと旦那が息子とついてきて、背中を流せ、三助の代りをしました。私の流し方が良いといわれ、私の得意技のひとつの指圧を旦那が待ちのぞんでおられました。当時はあんまを私が 5 分くらいはなれた家へ迎えに行くという段取でしたが、私の指圧がうまいと言われ、夜の一時間は唯この時間、指圧でした。疲れた私の身体は更に疲れるということになりましたが、唯一は江東の楽天地の無料切符がもらえることが又楽しみのひとつであり、オードリーヘップバーンのローマの休日等を観て、ヘップバーンが好きになり、松竹の株式を沢山持った旦那の影響で、松竹歌劇の女優、男優が好きになり、あんまと切符の交換も又楽しからずや、でした。

春日八郎のお富さんが流行り、力道山、木村柔道家とシャープ兄弟のテレビの放映は店のお客の整理係、お得意様は一番前、旦那のとなりと配慮することもこの時に学びました。

鉄の品種は多くあり、誰も手にとって教えてくれません。自分でおぼえ、東京中を自転車で現金集金し、配達し、アメリカ進駐軍の鉄の払下げに一喜一憂した当時、鉄が入荷すると飛ぶように売れる時もあり、不景気風が吹くと、ぼとっと動きが瞬間とまることも経験しながら、この時です。休みには浅草のキャバレーで若き島倉千代子と会い、酒をのんだり、ダンスホール、小松川の小さなホールでブルースとジルバを習い、月 2 回の休みには浅草でプロダンサーにカレーライス 70 円を驕り、2 時間金がなくとも教えて頂いたこともなつかしい思い出となりました。月給は 7500 円、食費が月 5000 円、2500 円の残り風呂が毎日 15 円、あとは夜腹がへり中華そば（30～40 円）を食べたり、娯楽費は映画は無料、唯一の楽しみはダンサーそれもプロのダンサーとの交流でした。

独身の強みを謳歌していた頃、2 年たち、いよいよふるさと三条、母から帰ってこいとのことばに馴れた東京を去ることにしました。旦那は中々許可しませんでした。

私もこのままでは馴れてしまい、東京生活から心をいれかえゼロからもう一回ふりだしにもどって鉄の道をひとりで頑張ってみたいという心境となり、帰るなと言われた旦那の言葉を振り切り、帰郷を決意しました。

母が三条駅に毎日毎日私のことを迎えに来ていたことを後で知り、ありがたいことでした。

いよいよ三条に帰り、昭和 31 年の春、4 月、資本力の小さな、月商 100 万円の我が家の家業に舞いもどり、三条での一歩、朝 5 時に起き、鍛冶屋まわり、注文で挨拶に伺う仕事を始め、夜 12 時寝る迄働く習慣をそのままにスタートしました。

東京の修行生活で身についた生活習慣は私にとって尊い財産となり、今でも「早起きは三文の徳」と思って実行しております。

この習慣はふるさと三条に帰って、鍛冶屋さんの朝の焼入れの時間となり、最初は中々家に入れてくれませんでしたが、私が鉄を売りに行くだけでなく情報をもってゆく商法をとりましたのと、同業でない唯の鉄売りということで立会いも許可され、朝食前に注文を頂き、昼間は配達と集金に明け暮れた日々でした。帰った時は月商 100 万円、従業員が 3 人、現金と掛売りの毎日、一年くらいで月商 1,000 万円となり、流動資金も不足ぎみ、何故か、掛売りが増えた現象が発生しました。

当時は銀行の信用はゼロに等しく、ようやく、信金さん、信組さんから、30 万円をお借りし、すぐ上京し、現金をふところ、胴巻きに入れて、本所かいわいを廻り、両国・錦糸町、亀戸駅と駅出しを 10 トン車貨車に 15 トンくらいをのせて、北三条駅へと発送したものです。北三条駅ではもうお得意様が待っており、馬車屋をたのみ、馬車と大八車を引っ張って販売し、現金にして又その日の夜行列車にのり、三条にむく鉄材、主に刃物材、玄能、ペンチ、プライヤ、ヤットコ、ノコギリ材料を買いあさりました。

進駐軍の払い下げの鉄板や、メーカーの発生品などを集め、駅出し、都内の駅から北三条や三条駅に向けて発送しました。

利益もお陰様で定着し、母が銀行へ日参して日掛や月掛をしてある程度、貯まると借りる条件でようやく少しずつながら信用がついてきました。歩積み両だての制度をつかい、年々月商があがり、昭和 36 年頃は月商 1 億円の大台にあがったこと。そしてお得意先の帳面をかくす取引をして、税務署の調査が入り、脱税で当時のお金で 2,000 万円現金でとられてしまい途方にくれたことを思い出しております。脱税は絶対やめようと、即会社組織にして、心を入れ直して再出発することになりました。

そのころから、三条の鍛冶屋さんも、工業形態に替り、従業員の募集に入り、労働契約、労働組合も誕生し、改革期の戦後の第一期が三条という田舎にもやってきて、各企業も個人経営から株式会社という組織をつくり、社長・専務時代を迎えておりました。

昭和 36 年、中條鋼材株式会社。母を社長に私が専務取締役となり、鉄の加工業として安定供給の時代を迎えました。

鉄は町の中から仕入れしたものが、製鉄業から鉄の流通があり、時代と共に大手流通商社との取引が始まりました。

「鉄は国家なり」国営企業の鉄の商売は、全部大手商社がにぎっておりました。１次問屋を大手商社が形成し、八幡製鉄所は、三井三菱・岩井・安宅と四商社しか認めていない時代、当社はいち早く、戦前取引のあった、安宅産業さんに口座を設けることができました。一方、関西の雄、川崎グループの川鉄商事さんの２次問屋として登録され、うなぎのぼりの鉄鋼の需要にこたえ、新潟に発生した昭和３９年の新潟地震ものりこえ２８才そこそこの若い当時の私は希望と勇気でただ頑張る心と健康を資本として、新潟県内の総代理店としての許可を自力で勝ち取り、ただわき目もふらず、月月火水木金金と休みなく働くことになったのでした。

幸い新潟地震のあった昭和３９年の年、三条ロータリーの３２名の一員として、明治生まれの先輩方にきたえられ、優しい心をもつ人になれ、強く生きろと激励され、新しい希望をもちながら、地元のため、家業が自然と大きくなり、災害や鉄不足事態と闘いながら、田中内閣時代を迎え、田中ファンのひとりとして、目白へ何回か訪問し、勇気と元気を得ながら、鉄の道を歩んで参りました。

唯一の楽しみはロータリーの昼・夜の例会を楽しんで過ごさせて頂き、先輩方、もうほとんど鬼籍に入った方々を偲んでおります。

三条ＲＣチャーターメンバーは全員ご健在でした。

私の入った頃のロータリーについて述べてみたと思います。

ＲＩ第３５５地区、栃木・茨城・群馬・新潟と四県にまたがり、地区大会はそれぞれガバナーが出た所が会場でした。

中條さんの貴重な体験またエピソードを聞かせて頂き、大変ありがとうございました。
私もみつわ屋さんのお蕎麦を５０円で食べた記憶がございまして、懐かしく感じられました。
内外卓話第一回目に、やはり歴代会長の卓話を頂く企画を取り入れて頂いて本当によかったと思っております。プログラム委員長の渋谷様、次回もよろしくお願い致します。
ご本人から直にお話を聞かせて頂くのは、週報の活字から受ける印象とはまた違った想いをくむことができ、感慨深く聞かせていただきました。次週今回の週報が出来上がり、今度は文章として読ませて頂くのが更に心待ちとなりました。次回歴代会長卓話も宜しくお願い致します。
本日は皆さんどうもありがとうございました。

連絡：

年間予定表を週報に掲載しました。先週配布の合同名簿の予定表で変更がありますのでよろしくお願いします。８月２７日親睦移動例会となっていましたが、８月２０日（土）に変更になりました。

中條 耕二パスト会長卓話資料より

三人の偉人の言葉

心変れば

心変れば　　行動が変る
行動が変れば　習慣が変る
習慣が変れば　人格が変る
人格が変れば　運命が変る

野村　克也

道

自分には自分に与えられた道がある。
広い時もある　狭い時もある
のぼりもあれば　くだりもある
思案にあまる時もあろう
しかし心を定め希望をもって歩むなら
必ず道は開けてくる
深い喜びもそこから生まれてくる

九十四歳　松下幸之助

ロータリーの奉仕とは
百慈を施したるは　全て忘れよ
一恩は終生忘るべからず

平澤　興